

〇〇〇らしきって

小 六

私には四才の弟がいます。弟には大切にしていくぬいぐるみがあります。ねるときも出かけるときもいつもいっしょです。弟は、私の持っているかわいい物を見ると

「これ、かわいいね。」

と言います。もちろん車のおもちやも大好きで、とてもくわしいです。

弟は虫が苦手です。小さなアリもとてもこわがります。私はそんな弟に、「なんで男の子なのに、虫がきらいなの。」

と聞きました。すると弟は、「だって虫はこわいし、気持ち悪いか

らきらいだよ。」

と言いました。今度は、

「じゃあ、なんで男の子なのに、お人形やおままごとが好きなの。」

と聞くと、

「だってお人形のお世話をしたり、お料理を作ったりするのは楽しいからだよ。」

と笑顔で言ってきました。そんな弟を見て、「男の子なのに、女の子みたいで変なの。」と思いました。「そのうち大きくなれば、他の男の子のように、虫も好きになるし、お人形でも遊ばなくなるのかな。」とも思いました。

でもそのときに「なぜ男の子がかわいいものが好きじゃ変なのかな。」という気持ちがわいてきました。よく考えてみると、私も青色が好きだし、ズボ

ンもはきます。

いつからか「○○だから○○が好き。」「○○だから○○はだめ。」と勝手に思いこみ、そのことが当たり前になっってしまった。そして、周りの人たちもきつと同じように思っているんだらうなと気が付きました。

しかし、そんな幼い弟を見ていると、好きなものは好きだし、きらいなもののはきらいで、それが人間として当たり前なのだと思えてきます。私もきらいなものを無理に好きになれと言われたら、とてもつらいことだと思うし、そのことを周りの人からかわれたり、ひどい言葉を言われたりしたらとても悲しい気持ちになると思いました。

私はふだん「人はだれでも平等で差

別はしない。」と思っているけれど、自分が気付かないうちに、差別をしまっているのではないかと思いました。自分では当たり前のことが他の人にとっては当たり前ではないこと。このことは、弟がいなかったら気付くことができなかったのかもしれない。

どうして自分が気付かないうちに「○○は○○が好きで、○○はきらい。」と決めつける気持ちをもってしまったのかをお母さんに聞いてみました。

するとお母さんは、

「とても難しい問題だね。産まれたときに着るはだ着の色が、男の子は青で女の子はピンクが多いよね。私たちの意識はそういうところから無意識のうちに植え付けられているのかもしれないね。みんなちがって当た

り前という、そのことをみんなが意識できれば、きっと世界中の人々が平和で幸せに暮らせるのにね。」

と言ってくれました。

お母さんの言うように、世界中のわたちが幸せになるためには、「まずは私  
が人と自分を比べずに自分をみとめて  
あげる。そして周りの人たちをみとめ  
られる自分になれるといいな。」と思  
いました。